

昭和初期の若者とともに学んだカルシュ博士 若松 秀俊



フリッツ・カルシュ博士
(1893-1971)

大正 14 年より 14 年間にわたり、旧制松江高等学校（現・島根大学）で教育に力を注いだドイツ人哲学者フリッツ・カルシュ博士がいる。彼は、日本の哲学や宗教の研究者で教育者であり、昭和 15 年から 5 年間は外交官でもあった。彼の薫陶を受けた著名人には「長崎の鐘」で知られる永井 隆、免疫学者の奥野良臣をはじめとする科学者、著名な政治家の赤澤正道、福永健司、細田吉蔵、それに文学者、法律家、外交官など枚挙に暇がない。当時の朝鮮、台湾からの学生で、戦後に故国の復興などに尽力した有能な医師、技術者などもあげることができる。ラフカディオ・ハーンと並ぶ功績を残した同博士は、数多くの優れた風景パステル画、歴史的写真、それに専門著書、関連図書と膨大な未整理の研究原稿を残している。戦中・戦後の混乱により歴史の狭間に埋もれた、偉大なカルシュ博士について、その足跡が広く国民に知られることを心から念じ、1999 年以来、日本国内、ドイツおよび米国で蒐集した多数の資料がある。

カルシュ博士 略 歴 ブラゼヴィッツに生まれる(1893)，市立小学校入学(1899)，父ヘルマン急死(1901)，王立ドレスデン・ノイシュタットギムナジウム入学(1903)，ブラゼヴィッツ職業ギムナジウムに転校(1906)，ドレスデン国際博覧会参加(1911)，大学入学資格試験合格・ドレスデン工科大入学(1914)，第一次大戦時、通信兵として従軍・復員(1914-1918)，マールブルク大入学(1919)，エッメラと結婚(1921)，哲学博士授与(1923)，松江高等学校着任(1925)，アクセンフェルト教授来日、各地を案内(1930) ドイツ一時帰国・親類との交流(1931)，松江高校退任・ドイツ帰国(1939)，ドイツ大使館勤務 副武官(1940-1945)，マールブルクへ強制送還(1947)，三笠宮崇仁殿下主催のパーティに招待(1960)，年金生活(1967)，アルベルト・コルベ・ハイム(老人ホーム)入居(1967)，旧制松江高校同窓会の日本訪問招待(1968)，カッセルで死亡(1971)，若松と次女フリーデルンとの偶然の出会い(1999)をきっかけとして、日独文化交流の架け橋の功労者として日独協会により森鷗外らとともに紹介(2005)されている。

若松 秀俊 プロフィール

1946 年 福島県いわき市に生まれる。横浜国立大工学系大学院修了後、東京大学で工学博士を取得。1972 年東京医科歯科大医用器材研究所助手、1986 年足利大工学部助教授、福井大工学部教授を経て、1992 年東京医科歯科大医学部教授、医学系大学院教授就任、2012 年以後は同大学名誉教授。この間、ドイツ学術交流会政府留学によるエルランゲン・ニュルンベルク大学医学部客員研究員、アメリカ合衆国ニュージャージー州エレクトロニック・アソシエイツ・インコーポレティド特別研究員。文部省派遣によるオレゴン州立大学コンピュータサイエンス学客員教授。なお、APCCM アジア太平洋計測制御国際学会の議長、ACPSF 生理状態・機能の自動制御国際誌編集委員長、中国武漢地質大学客員教授などを歴任、現在に至る。専門は、「生体機能制御システム」と「情報通信技術を用いた福祉システム」

以下は参考までに添えました。

カルシュに関する主な著作に「忘れ得ぬ偉人」(2002 年)「湖畔の夕映え カルシュ博士と松江」(2002 年)「四ツ手網の記憶」(2007 年)「朝霧の瀬」(2012 年)「縁の環」(2012 年)「Erinnerungen aus dem Viereckigen Tauchnetz」(2016 年)「新版四ツ手網の記憶」(2017 年)

簡易写真集に ①「松江の誇り」②「大山その眺望」③「神社仏閣 島根」④「田園風景」⑤「近隣の人々」⑥「旧制松江高校」⑦「風光の美」⑧「水の都 松江」⑨「故郷と友情」⑩「軽井沢その周辺」⑪「日本海の眺望」⑫「カルシュによる絵画」(2015-2016 年)がある。

新聞連載には、山陰中央新報 「カルシュの足跡を追って」連載 32 回 2003 年 5 月～12 月

① 読売新聞「島根の記憶」連載 15 回 2004 年 7 月～12 月

② 朝日新聞「ドイツ人哲学者がみた島根・日本」連載 35 回 2008 年 6 月 11 日～2009 年 3 月

カルシュに関する主なテレビ放送：カルシュ 14 年 の足跡松江放送局内、企画展 2004 年 4 月 2 日～18 日、

フリッツ・カルシュ：山陰ケーブルビジョン 2017 年 1 月 1～4 日 2 月 21, 23 日、2018 年 8 月再放送

展示会は 2004 年以来、松江、軽井沢、鳥取などで行われております。とくにカルシュの残した昭和 3 年昭和天皇即位の御大典と続いて昭和 4 年に行われた「ホーランエンヤ船神幸祭は最近行われた展示会です。